

内なる平和を求めて（1/4）：その 成を妨げるもの

:

明:

人は内面的平和をどのように定 するのか、そしていかにその 成へ向けて努力するのか、また内面的平和の 成を妨げるものとは何かを ていきます。

目: [事イスラ ムによる利益真のよろこびと内面のやすらぎ](#)

より: ビラル フィリップス博士 (アブ ウスマ ン氏 音の から 写)

日 8 Jan 2010

集日 24 Aug 2020



内面的平和というテ マは、普遍的ニ ズに わるものです。内面的平和を求めない者は、この地球上に一人もいないでしょう。こういった必要性は私たちの 代特有のものでなく、人 の 史上、年代、人 、信条、宗教、性 、能力、富の有 、または科学の 展に わらず、求め けられて来たものなのです。

人 は内面的平和の 成のため、 々な方法を みて来ました。ある者は物理的な富の蓄えによって、ある者は 物や音 などによって、またある者は や 、自分の子供の などをその手段にしようとしてしました。その を げれば、枚 にいとまがありません。

そしてその探求は かなりのものです。私たちの 代では、科学の 展と近代化によって 物理的な快 さがもたらされ、それらにより内面的平和が得られるのであると信じ まされて来ました。

しかしながら、世界で最も科学的に しており、最も工 が した国である米国を てみると、私たちが信じるよう刷り まれて来たことが事 ではないことが分かります。 によれば、米国では年 二千万人の成人が 病に んでいるのです。内面的平和が完全に欠如したものが 病であると言えるのではないのでしょうか。更に西 2000年の自 による死亡率は、エイズによる死者の二倍だったのです。しかしニュ スなどのメディアによって、私たちは自 して死んだ人々よりもエイズで死んだ人々の方に注意を向けさせられているのです。米国では他 の割合が非常に大きな部分を占めているのにも わらず、自 で死ぬ人々の数の方が更に多いのです。

って、 には科学の 展と近代化は、内面的平和や安 をもたらすものではないということになります。近代化から私たちは多くのものを享受しているにも わらず、私たちは先人たちよりも内面的平和から い 所にあるのです。

内面的平和とは、私たちの人生の大部分において、非常に捉え所のないものです。それはあたかも、私たちが して手にすることの出来ないもののようにもあります。

私たちの多くは、 人的 足を内面的平和であると勘 いしています。私たちは 足の要素を 々なものの内に出します。それらは富、性的 などですが、それらは永 せず、はかないものです。また私たちはしばしば 人的に 足したり、 々な事によって 足したりしますが、これは内面的平和ではありません。真の内面的平和とは、人生における や困 をり越えることの出来る安定した感情と 足感なのです。

私たちは、平和が私たちの周りの世界に存在するものではないことを理解しなければなりません。なぜなら辞 にある平和の定 とは、 争や争いからの解放であると述べられているからです。これは一体どこに られることでしょうか？世界のどこかでは必ず 争や何らかの争いが行なわれています。国家レベルでの平和に して る 合、平和とは 秩序

第一段 としては、それらの障壁が何であるかをはっきりと することです。 が出来なければ除去も出来ないため、私たちはまずそれらを しなければなりません。

第二段 として、私たち自身の中で、それを障壁であると めることです。例えば、怒りは内面的平和にとっての最も大きな障壁です。人が自らを怒りに任せ、ヒュ ズの んだような状 にある中で、いかにして内面的平和を保つことが出来るでしょうか。もちろんそれは不可能です。 ってそのような人物は、怒りが内面的平和を妨げる障壁であると 知しなければならぬのです。

しかし、もしその人物が「それは障壁でしょうが、私は怒ったりはしません」などと 主 するのであれば、それは の 生を意味します。彼は障壁を と なしておらず、自己否定に入っているからです。そのようなことでは障壁を取り除くことは出来ません。

人生における障壁を 渡せば、それらには 々な 出しを付けることが出来ます。人 、家族の不和、 的な心配事、仕事のストレス、精神的な迷いなどが げられます。そしてそれらの 出しの中にもまた多くの が潜んでいるのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/633>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。